

NEWSLETTER KAWAUSO

カワウソだより

2024年1月15日、13名の有志が集結して、同年6に里山の維持・再生を目的に設立したNPO法人の会報です。法人の名の通り、さとやまから世の中に貢献する活動に邁進していきましょう！

写真 里山での生物調査

CONTENTS

第1回通常総会を開催（2025年3月8日）	2P
里山の生物調査	2P
蕎麦栽培 そばチャレンジ 2025	3P
稲づくりイベント イベント出店 そばチャレンジキックオフイベント	3P
収穫感謝の儀（奉納能）2025年10月18日	4P
会員募集 編集後記	4P

第一回通常総会

2025年3月8日 ならまちセンター

2025年3月8日、第1回となる通常総会を行い、活発な議論ののち、議案が承認されました。参加者は、正会員11名で、総会の後は懇親会を行いました。



里山で生物調査 100種類を超える昆虫や植物たち

2025年 7月15日 / 9月25日 秋津穂の里周辺の里山で



里山は、農産物の生産地というだけでなく、年々希少になっていく多様な生物が生態系を維持する里と森林の緩衝地帯としての価値があります。

では、我々さとやまからの活動舞台となっている里山では、実際にどのような生物たちが暮らしているのでしょうか。専門家をお招きして、調査活動を行いました。

2025年7月15日と9月25日の2回、「森と水の源流館」(川上村)から昆虫専門家、個人の植物研究者、龍谷大学の森林生態学の教授を招いて、NPO関係者とともにも棚田エリア(秋津穂の里)の生物調査を行いました。専門家の知識の豊富さには本当に感心するとともに、



生物の面白さに心奪われました。そして調査の結果、100種を超える昆虫や希少な植物が見つかり、豊かな里山環境が維持されていることがわかりました。

静かな農村風景の中に、躍動感あふれる生物たちの営みがあることを目の当たりにし、この環境を守って行きたいとの思いを強くしました。そしてこの価値を、現代社会に貢献する形で発信していきたいと思います。

里山はかつて人間が森林を開拓して作りましたが(この辺りでは室町期)、自然と折り合いをつけて豊富な動植物と人間が共存する場所です。今後も、里山の生物調査を継続してゆきます。

＊2025年の生物調査は、朝日ウッドテック株式会社様からの支援金で実施しました。

蕎麦栽培の耕作面積、過去最大。

2025年(令和7年)の蕎麦栽培活動「そばチャレンジ」



令和7年の蕎麦栽培は面積が30a、収穫量は過去最大の300kgに！獲れた蕎麦粉を扱ってくれる店舗も増えました。蕎麦切りだけでなく、パンケーキ、パスタ、ガレットなどさまざまにご利用いただいております。お客様の評判も上々です。

今年もそばチャレンジの活動を普及するために、地元御所市で蕎麦の実演販売を2回、蕎麦花の見学ツアーも行いました。御所蕎麦のリピーターも増えて、認知度急上昇です。

そして、共に汗するそばチャレンジメンバーも毎年増えています。メンバーの想い一つです、『御所の棚田に蕎麦産地を』。

フレンチレストランとコラボした収穫祭では、メンバーの気持ちを一つにしました。



稲つくりイベント 年々盛況を増しています

2025年 6月8日 / 9日 秋津穂の里

令和7年度、杉浦農園から引き継いだ稲つくりイベントですが、酒蔵の協力のもと、田植え、草取り、収穫作業を行いました。

いつもながらに、100名を超える棚田の作業風景は壮観です。油長酒造様からの日本酒販売、作業の後のお楽しみ、フレンチのシェフのお料理はボリュームタップリ、秋津穂米に野菜たっぷり味噌汁、御所蕎麦、日本酒バンドによる演奏とタップダンス、参加者の皆さん大満足のご様

子でした。また田植え後は、これまたたくさんの方々が次々と草取りに訪れて、暑い日差しにも負けず草と格闘してくれました。何度もリピートしてくれる人も多数！かつては草取り3回と言われ、農家にとって一番きつかった作業も、仲間がいれば百人力ですね。

10月に収穫した秋津穂米は、水田の真ん中に完成した葛城山麓醸造所で清酒「S風の森」に醸されました。



認知度アップ イベント出店



毎年地道にイベント出展することにより、御所蕎麦のファンも増えています！

そばチャレンジ2026 今年もキックオフイベント



作業予定の確認とメンバーの親睦を深めました。新規そばチャレンジメンバーは、随時募集中です。

今年も！

収穫感謝の儀（奉納能）

2025 年 10月18 日 葛城山麓醸造所 テラス

稲づくりイベント収穫祭の前日に、葛城山麓醸造所のテラスをお借りして、人間国宝、能楽囃子方大倉流小鼓方十六世宗家大倉源次郎師をお招きし、奉納能を執り行いました。能の起源とされる猿楽は、室町時代、大和国を中心に栄え、田楽などと融合しながら御田植祭などの神事において演じられてきました。そして猿楽から発展した能楽もまた、

神事を通して日本の農業に深く関わってきました。

そこで、里山の農業をアピールするにあたり、稲作と関係の深い伝統芸能に着目することによって、衰退する里山の農業への関心の入り口を広げたいと考えました。大倉源次郎師は、能楽の普及、発展のために、国内外において精力的な活動を展開されており、この度大倉師ならびに



葛木御歳神社の東川宮司のご厚意により本神事が実現しました。

御所市長、地元市議、区長、村人、酒蔵、関係者が集まりました。厳かな神事後は、大倉源次郎師の小鼓の音が里山に響き渡りました。参加者一同、息を呑むように奉納演奏を聴き入っていました。里山能楽の今後が楽しみです！



2026 令和 8 年度の活動 & 予定

- 6～10月………… 秋津穂の里 稲づくりイベント
田植え・草取り・稲刈り
- 7月下旬………… 蕎麦チャレンジキックオフイベント
- 9月…………… 生物調査
- 11月8日………… 霜月祭 蕎麦の実演販売
- 12月上旬………… 蕎麦収穫祭



会員募集中！

お知り合いにもお声がけいただき、さらなる会員募集にご協力ください！

現在の
会員数

正会員38名
賛助会員4名
団体会員1団体

正会員 年間 3,000円
賛助会員 年間 1,500円
学生会員 年間 1,500円
団体会員 一口年間10,000円

ご入会はHPから

右QRから直接
入会ページへ
<https://satoyamakara.or.jp/nyukai/>



編集後記

NPO設立2年目は、色々な事業も増えて、新たな出会いにも恵まれました。里山への扉は多い方が良いと思っています。

一方で、農業とNPO理事長の二足の草鞋にはまだ慣れず、秘書が欲しいなどと、贅沢なことを呟いております。

特定非営利活動法人さとやまから
理事長 杉浦英二

